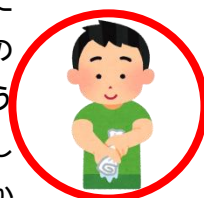


唐突ですが、「水を張ったバケツの中のタオルを絞る」ところを想像してみてください。そして、タオルを絞るときは、どのような手の動きになるでしょうか？

「手のひらを上に向けて握り、左右の手を逆方向にねじる。絞り終わると手の甲が上にくる」いわゆる「縦絞り」を正しい生活技術として規定して判定したところ、できたのは、小学校 6 年生の 23.8%が最高でした。調査した 3 歳から高校 3 年生までの年齢のうち、いずれも生活技術が定着したとされる自立ライン（同一年齢の子の 70～75%が正しい動作ができた）に届かなかったそうです。「生活技術に関する調査」2018（対象 3 歳から 18 歳までの子ども 1469 人）参考『内外教育』 2019 年 11 月 15 日号



最も多かった絞り方は、鉄棒のようにタオルと体が平行になる順手、いわゆる横絞りだったそうです。また、長いタオルをたたまず、団子のように握る団子絞りも多かったといえます。これは 1985 年の同調査と比較して、どの年齢も約 20～30%近く低下傾向にあるそうです。よく考えてみると、日常生活の中にタオルを絞るという動作が少なくなっていることから、別の調査ではありますが、体力テストの握力の低下などもその原因になっているかもしれません。

調査はこの他に、「卵を割る」の自立ラインが 6 年生以上、「タオルでテーブルを拭く」では 4 年生以上、「お茶を入れる」では 6 年生以上となっています。

「茶葉を適量計り、急須に入れ、やかんの湯を指し、器に注ぐ」ことができたのは、小学校 6 年生 74.6%、中学生が 64.2%、高校生が 75.1%となっています。それは裏を返せば、小学校 5 年生家庭科に「お茶をいれる」学習があるものの、約 4 分の 1 は高校生になっても定着しておらず、社会に出た際に少なからず困ることが予想されるということです。

これは、各家庭の生活スタイルの変化の結果とも言えます。今は、温かいお茶を飲む習慣がある子は、小学校 5・6 年生で約 20%程度に留まるそうです。ですから「お茶はペットボトルで飲む」、「テーブルは使い捨てのティッシュペーパーなどで拭く」という回答が増加していることは、言うまでもありません。

生活技術の体得の第一は家庭ですが、生活スタイルの「使い捨て・簡略化」の影響は、確実に進んできています。「生活技術」のモデルを目にする機会が減少しているということは、子どもたちにとって一人前の大人としての作法やマナーを身につける機会が不足しているということになります。



白状すれば、我が家もテーブルを拭くのは大概ウェットティッシュ、お茶は粉末にお湯を注ぐだけです。ですから、日常的に大人が子どもの生活に関心を持ち、お手伝いなどの役割を与えながら、一緒に生活技術を向上させることも仕組んでいく必要があります。我が家では、せめてお正月には来客に、急須で丁寧にお茶をいれてお出ししてみせようと思いました。【Ｙ】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^\_^)

mailto:[kosodatem@pref.iwate.jp](mailto:kosodatem@pref.iwate.jp)

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>） > 「発行物・刊行物」

> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^\_^)/

\*\*\*\*\*

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索